

令和7年度事業報告

事業概要

「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年の育成を図ること」を目的としており、この目的を達成するため、山梨県から指定管理者として指定を受けている3施設の管理運営を行うとともに、これらの施設等において、「青少年の自然体験、生活体験、奉仕体験などの体験活動を推進する事業」、「子どもや親子の自由な遊びやふれあいを促進する事業」、「青少年の文化、教養、スポーツ活動を促進する事業」等を展開した。

職員の状況

施設名	区分	7年度	6年度	増減
青少年協会	常勤役員	1	1	0
青少年センター	協会常勤職員	5	6	△1
	契約職員	4	4	0
	計	9	10	△1
愛宕山こどもの国	協会常勤職員	5	5	0
	契約職員	4	4	0
	計	9	9	0
八ヶ岳少年自然の家	協会常勤職員	5	6	△1
	契約職員	4	4	0
	計	9	10	△1
合 計	常勤役員	1	1	0
	協会常勤職員	15	17	△2
	契約職員	12	12	0
	計	28	30	△2

事業実施状況

I 法人会計 協会の運営

- 1 理事会等の運営、理事会、評議員会等の諸会議を開催し事業を推進した。
- 2 本協会が実施する事業推進のため、集中経理によるコスト節減や自主財源の確保に努めた。

理事会決議事項

回数	開催年月日	決議事項
第 1 回	令和7年 4月10日 (決議の省略)	1 令和7年度第1回評議員会開催の件
第 2 回	令和7年 6月 5日	1 令和6年度事業報告の件 2 令和6年度収支決算の件 3 令和7年度定時評議員会開催の件
第 3 回	令和7年 6月27日 (決議の省略)	1 代表理事(理事長)選定の件 2 業務執行理事(専務理事)選定の件 3 重要な使用人の選任の件 4 令和7年度第3回評議員会開催の件
第 4 回	令和7年 8月20日 (決議の省略)	1 財務規程改正の件 2 令和7年度第4回評議員会開催の件
第 5 回	令和7年12月 1日 (決議の省略)	1 令和7年度第5回評議員会開催の件
第 6 回	令和8年 3月17日	1 令和8年度事業計画の件 2 令和8年度収支予算の件 3 育児休業等に関する規程改正の件 4 介護休業等に関する規程改正の件 5 役員賠償責任保険加入の件 6 令和7年度第6回評議員会開催の件

評議員会決議事項

回数	開催年月日	決議事項
第 1 回	令和7年 4月22日 (決議の省略)	1 理事補充選任の件 2 評議員補充選任の件
定 時	令和7年 6月27日	1 令和6年度収支決算の件 2 理事選任の件 3 定款変更の件
第 3 回	令和7年 7月15日 (決議の省略)	1 定款変更の件
第 4 回	令和7年 9月 2日 (決議の省略)	1 評議員補充選任の件
第 5 回	令和7年12月15日 (決議の省略)	1 評議員補充選任の件
第 6 回	令和8年 3月24日	1 令和8年度事業計画の件 2 令和8年度収支予算の件 3 定款変更の件 4 公益財団法人山梨県青少年協会役員等の報酬並びに費用弁償に関する規程改正の件

Ⅱ 公益目的事業会計 施設管理運営

施設利用状況

施 設 名	7年度 (人)	6年度 (人)	前年度対比
青少年センター	111,937	114,927	△2,990 (△2.6%)
愛宕山こどもの国	245,892	251,425	△5,533 (△2.2%)
八ヶ岳少年自然の家	40,944	40,106	838 (2.1%)
合 計	398,773	406,458	△7,685 (△1.9%)

事業集計表

施 設 名	7年度 (人)	6年度 (人)	増 減
	実施事業数(予定)	実施事業数(予定)	事業数(件)
	参加者数(人)	参加者数(人)	参加者数(人)
青少年センター	33(33)	34(34)	△1(△1)
	3,371	5,896	△2,525 (△42.8%)
愛宕山こどもの国	23(23)	24(24)	△1(△1)
	13,565	16,649	△3,084 (△18.5%)
八ヶ岳少年自然の家	28(30)	30(30)	△2(0)
	7,627	7,222	405 (5.6%)
合 計	84(86)	88(88)	△4(△2)
	24,563	29,767	△5,204 (△17.5%)

1 県立青少年センター管理運営事業

青少年が、安心してのびのびと活動できる拠点として、また、個人・各種サークルや団体等の県民の活動や交流の場として、安全で快適にご利用いただけるよう、適切な施設管理を行った。また、パラスポーツセンターとスタートアップ支援センターとは通常利用および事業での合同開催で連携を図った。

事業では、生涯学習の一環として幅広い世代に対応した事業を33事業実施し、青少年団体との連携を図りながら、利用促進に取り組んだ。

施設利用者 111,937 人(前年度 114,927 人)

(1) 快適な利用環境を整備し、利用者サービスを向上

安全で快適な活動、研修、交流の場を提供するため、毎日の巡回点検を基本に、週1回の環境整備、休館日を利用しての一斉点検・整備、専門業者によるメンテナンスを実施した。

(2) 積極的な広報活動

従来から活用しているホームページの更新や SNS では X や協会の LINE アカウントでの情報発信と各種イベント情報の周知に努めた。

(3) 事業の充実

健全な青少年の育成を図るため「各種のスポーツ教室事業」、「様々な体験活動を行える事業」、「相談支援事業」、「青少年育成山梨県民会議」事業など、時代に即した課題や魅力あるテーマにより実施した。

青少年センター事業実施状況

(単位 人)

No	事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
1	おやこで楽しむ運動あそび	小さい頃に様々な動きを行うことで体をコントロールする力を養うと共に、親子のスキンシップを図った。	6 月	39
2	グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフの愛好者に活動の場を提供するとともに、参加者同士の親睦を深め、仲間づくりを進めた。またグラウンド・ゴルフの普及振興を図り、健康づくりに寄与した。	6 月、3 月 2 回	63
3	おやこで運動塾 ～かけっこ～	子どもやその保護者が、各スポーツの専門の指導者から学び、楽しみながら運動技能の習得を目指すと同時に、継続的な運動習慣の定着も目指し、親子でのかけっこ教室を開催した。かけっこにおける脚の上げ方、腕の振り方などを学んだ。	6 月、11 月 2 回	100
4	作って！ ねらって！撃て！ 水鉄砲スナイパー	水鉄砲づくりを通して、ものづくりの楽しさを味わい、技巧性を養いながら自分が作成したものに愛着を持ち、大切にすることを育てた。また、水鉄砲遊びを通して、グループ対抗で元気に走り回ったり、遊んだりする機会を提供した。	7 月 1 回	22
5	ネット・ワークショップ	小学生が「インターネット利用の問題」や「安心・安全なネット社会」等をテーマにかるたゲームやグループワークを行いながら、ネットリテラシーについて理解を深めた。	8 月 1 回	30

6	甲斐児わいわい紀行 ※体験の風をおこそう運動 推進事業	自然体験や集団宿泊経験の少ない 児童が、様々な体験活動を通し、仲 間と遊び、協力していく中で、自分 に自信をもって活動できる子どもを育て る機会とし、自然の良さ、厳しさを体 感し、自然への関心を高めた。 ※県立八ヶ岳少年自然の家本館・キ ャンプ場	8 月 (4 泊 5 日) 1 回	30
7	少年の主張山梨県大会	県内の中学生に、広い視野と柔軟な 発想や創造性などを育むきっかけと するとともに、物事を理論的に考える 力や自らの主張を正しく理解してもら う力を身につける機会とした。また、 「少年の主張山梨県大会」において 「少年の主張全国大会」へ出場する 山梨県代表者を決定した。	8 月県大会	49
8	めざせ！ 法律マスター ～模擬裁判をやってみよう！～	模擬裁判を通して、ルール作りや法 律などを理解し、討論する中で論理 的思考力・コミュニケーション技術を 身につけた。	8 月 1 回	12
9	おやこで運動塾 ～器械体操～	子どもやその保護者が、各スポーツ の専門の指導者から学び、楽しみな がら運動技能の習得を目指す同時に、 継続的な運動習慣の定着も目指し、 親子での器械運動を開催し、逆 上がりの動作、練習方法を学んだ。	9 月、2 月 2 回	50
10	青少年センターゲームチャ レンジ！	運動の苦手な人や体を動かすことが 嫌いな人でも遊び感覚で体を動かす ことができるゲームを行い、技術や体 力を身に付け、グループ間での交流 を楽しみながら親睦を深める機会と した。	11 月	17
11	北杜市放課後子ども教室	北杜市と連携し、北杜市放課後子ど も教室として実施する「ほくとワクワク 教室」(イベント)に、職員を派遣し、 レクリエーションやクラフトの講師と して指導した。また、同時に青少年協 会のPRを行った。(青少年協会、北 杜市連携事業)	12 月 1 回	23
12	親子でつくろう！ あそぼう！昔遊び	ゲーム機器が普及した現代におい て、親子で竹とんぼづくり、竹馬やコ マ回し、けん玉の昔あそびに親しん でもらい、親子間のコミュニケーション や試行錯誤等をする機会を提供し た。	1 月	29

13	子ども・若者支援フォーラム 「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」	「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」TSU・NA・GU～家庭・学校・地域・行政の連携で希望ある未来をつくろう～をメインテーマに「子ども・若者支援フォーラム」においてヤングケアラーの実態と必要な支援の方向性についての講演会を行った。	2月 1回	20
14	センターまつり	各種体験会、発表会、出店等による(文化)祭を実施し、地域に根差した施設を目指しつつ、文化・情報の発信地としての機能をセンターが担い、参加者に楽しい1日を提供した。また、パラスポーツセンター、スタートアップ支援センターとの合同開催により連携を図った。	3月 1回	1,458
15	「あいさつ・声かけ運動」市町村民会議等普及事業	「あいさつ・声かけ運動」を全県的に展開するため、各市町村への働きかけと、街頭キャンペーンを実施することでさらに「あいさつ・声かけ運動」を推進する。	通年 随時	
16	各種機関連携事業	各種関係機関と連携することにより、効果的な青少年健全育成事業を行った。各種プログラム提供や他機関事業への職員派遣、事業の協働実施を行った。	通年 随時	126
17	「家庭の日」 「青少年を育む日」 推進運動事業	「大人が変われば子どもも変わる」をテーマに、大人自身の姿勢や大人社会のあり方を省みるきっかけとなる啓発事業を行った。また、「家庭の日」「青少年を育む日」をテーマとした啓発ポスターを募集しカレンダーを作成した。	通年 随時	49
18 19 20	管理運営(3事業)	県民会議事務局の運営及び事業の円滑な実施を図るため、ホームページによる情報提供や事務局の管理運営等を行った。	通年 随時	
21	甲運小学校区 放課後子供教室	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	6月～1月 15回	172
22	施設利用促進事業	マスコミなどへの施設情報の掲載や、ホームページ・SNSの充実を図ることにより、青少年センターの周知を行い、新規利用者の確保と定着を図った。	通年 随時	
23	白ポスト事業	青少年にとって有害な図書等の回収のため、JR 駅等に設置した白ポストの維持管理を行った。	通年 随時	

24	青少年関係 NPO 法人等ネットワーク事業	関係諸団体をつなぐ「ツール」として X やフェイスブックなどの SNS の活用に加え、新設したメーリングリストを活用し、青少年育成関係団体等における情報の共有化を図るとともに、実施事業、ボランティア情報、各青少年団体から寄せられた情報等を広く県民に発信した。	通年 随時	
25	青少年・青少年育成功労者等表彰事業	青少年健全育成の一層の促進を図るため、善行青少年及び青少年健全育成功労者等を表彰した。	随時	6
26	青少年センターボランティア推進事業	青少年センターが開催する各種事業にボランティアとして参加してもらうことで、活躍の場を提供すると共にボランティアの活性化を図った。	通年 随時	9
27	地域交流事業	地域に根ざした施設づくりを推進するため、甲運地区夏祭りへの出展により、地域と施設の連携を強化し、安全・安心に暮らせる地域の醸成に寄与した。	通年	150
28 29 30	山梨県児童館連絡協議会（共催：青少年センター）（3事業）	① 会員相互の連絡提携により、児童館運営の充実を図り、児童の健全育成を支援した。また、会員の資質向上を図るために特別研修会や先進地視察研修、ブロック別研修会等を実施した。 ② 児童健全育成推進財団事業 ③ 放課後児童支援員認定資格研修事業	通年	713
31	利用者支援サービス	会議や研修で必要な書類のコピーサービスと、用具を持参しなかった利用者に用具の提供をし、利用者の利便を図った。	通年 随時	
32	レクリエーションインストラクター養成講座	受講者が、地域や職場で社会活動や奉仕活動を行うにあたり、レクリエーションインストラクターとして実践していくための知識や技術を学ぶための養成講座の募集を行ったが、申し込みがなかったため中止した。	通年	
33	若者相談室（コンサルテーション・ビューロー）事業	ニート、ひきこもりを含む若者無業者を中心に、様々な悩みを聞き、その悩みを解消するための専門機関へ紹介する等の支援を行った。また、自宅に学習環境の確保が困難な中学生・高校生に自主学習の場の提供を図ったが、提供に至らなかった。	通年 随時	204

2 県立愛宕山こどもの国管理運営事業

甲府駅から近く、子どもたちがのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努めるとともに、緑豊かな里山の自然の良さを感じながら、施設を利用するすべての方が安全・快適に利用できるための環境づくりに努めた。

また、令和7年9月からは、県立愛宕山少年自然の家の解体工事が本格的に始まったため、園内の一部を立入禁止にすることで利用者の安全確保に努めた。

施設利用者 245,892 人(前年度 251,425 人)

運営方針及び具体的な管理運営

(1) 利用者が安心して、快適に利用するための環境整備と施設管理

毎日行う定時巡回では、危険箇所の早期発見に努め、危険箇所が見つければ、職員が対応するものと専門業者に依頼して対応するものとに区分して、迅速な施設保守を行い、遊歩道沿いの倒木撤去や植物の保護に努めることで、人が入ることができる里山の環境整備を行った。

また、混雑が予想される休日やイベント開催時には、来園者が安全に過ごせるように職員を適正に配置するとともに、アルバイトを配置することで安全に配慮した運営を行った。

さらに、活動プログラムを行うエリアの実施前点検と活動中の巡回を徹底することで、安心安全な施設運営に努めるとともに、新規プログラムの開発を進めることで利用満足度の増加を図った。

そのほか、ホームページ、SNS を使った情報発信を行った。

あわせて、甲府市内でも目撃された熊対策として、来園者が自由に鳴らすことができるお守りベルの設置や熊よけホーン、熊よけスプレーなどを用意し、利用者の安全確保に努めた。

(2) 地域の団体やボランティアとの連携協働

県内の大学に通う学生ボランティアには、子ども対象事業の補助スタッフとして、子ども達の見守りと体験活動のサポートをしていただき、地元の奉仕団体には、園内の落ち葉やごみ拾いなどの環境整備作業にご協力いただくなど、地域やボランティアとの協働を図った。

(3) 積極的な広報活動

各種のイベントを開催するにあたって、ホームページやSNSを活用した広報活動に加え、イベント情報誌への掲載依頼を行った。

(4) 事業の充実

豊かな自然環境を生かした体験活動や施設の特色を生かした野外活動を通じて、青少年の健全育成を図るとともに、幼児とその保護者を対象とした子育て応援事業や世代間交流を図る事業などを実施することで、子どもの成長に応じた切れ目のない支援に重点を置いて各種事業を企画し、実施した。

愛宕山こどもの国事業実施状況

(単位 人)

No	事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
1	あたごやま自然観察会(春・夏・秋・冬)	愛宕山の四季の観察から自然環境や野生動物・植物に見られる多様性とその重要性を学習し、環境に対する意識の向上を図った。 第1回《春》春の動植物の観察 第2回《夏》セミの羽化の観察 第3回《秋》秋の昆虫の観察 第4回《冬》植物の冬芽、冬ごもりの昆虫・野鳥の観察、動物の痕跡(体毛等)の観察 第5回 オタマジャクシや水生昆虫の観察	4月、7月、10月、2月、3月 計5回	133

2	親子で出発！わくわく里山たんけん！ (子育て応援事業)	親子で五感を使ってその季節ならではの自然を感じ、豊かな情操を育むための体験活動に対する保護者の理解を深め、新しい発見をする機会とした。2種類のネイチャーゲームとカエルの観察を行った。	5月 1回	27
3	幼児・親子向けクラフトワークショップ	こどもの国工作室を開放し、豊かな感性と創造性を育むことを目的に季節ごとに自然物を使った工作体験の場を提供した。また、幼児教育を学ぶ山梨学院短期大学の学生とともに事業を実施することで、学生には実践的指導力の基礎を身に付ける機会を提供した。	5月,7月 2回	49
4	ほっこりふわふわ CARINO デイ (子育て応援事業)	保幼小接続期の「遊び」から「学びへ向かう姿勢」を育み、その後の家庭教育の充実を図る機会を提供した。午前中は親子で別々のプログラムを用意し保護者には講師を招いての「子育て座談会」、子どもはネイチャーゲーム体験に参加してもらい、午後は親子で一緒にネイチャーゲームを行った。	6月 1回	17
5	レスパイトケア事業	多くの保護者が就業中であると思われる「県民の日」にこどもの国で子どもを預かることにより、家に子どもが一人であることがなくなる等の子育て中の保護者が抱える課題解決に取り組んだ。 ・事業参加者の乳児預かりサービス ・『県民の日』小学1年生から3年生の子ども預りサービス	6月,11月 2回	6
6	職場体験・インターンシップ 受入事業	教育事業や日常の研修支援などの業務を体験することで、早い段階から将来への明確な目標を構築するための活動を支援することを目的に、山梨大学から1名の学生を受け入れた。	8月 1回	1
7	甲斐児わいわい紀行 ※体験の風をおこそう運動 推進事業	自然体験や集団宿泊経験の少ない児童が、様々な体験活動を通し、仲間と遊び、協力していく中で、自分に自信をもって活動できる様に支援した。4泊5日の集団宿泊体験とおして自然の良さ、厳しさを体感し、自然への関心を高めた。 ※県立八ヶ岳少年自然の家本館・キャンプ場	8月 (4泊5日) 1回	30
8	やまなしこどもまんなか愛宕山	児童館職員とともに、親子に工作体験を提供した。また、『こどもの居場所』として児童館の機能やその活動をPRした。	10月～3月 年9回	237

9	家族で楽しむ アウトドア ～みんなで楽しくプチ登山～	園内にある大笠山周囲の自然を楽しみながら親子で登ることで、季節を感じるとともに、親子の絆を深めることを目的とした。山の登り方や装備の指導の他、昼食には携帯食料を提供するなど、参加者が野外活動を理解する機会を提供した。	11月 1回	23
10	落葉焚きで焼き芋	園内で落ち葉を集めてもらい、サツマイモを焼きながら家族団欒の時間を過ごしてもらうとともに、参加者同士の交流の機会を提供した。	11月 2回	83
11	あたごやま 親子陶芸教室	陶芸初心者親子を対象に、作る楽しさや喜びを感じてもらい、親子の絆を深める機会を提供した。	11月、1月、2月 3回	173
12	つくってみるじゃん正月飾り ～世代を超えて伝えたい～ (異世代交流事業)	護国神社・甲府遺族会の協力を得て、正月飾りを家族で協力して作成した。事業をととして伝統や風習を知るとともに、様々な世代の人々の交流を深める機会を提供した。	12月 1回	30
13	愛宕山で初日の出を見よう！	初日の出の時間に合わせてこどもの国入口ゲートをオープンすることで、幹線道路上における事故の防止や渋滞緩和に繋げるとともに、感動を共有しながら新年を迎える特別な場を提供した。	1月 1回	333
14	幼児向け自然体験活動指導者研修会	指導者が幼児期における自然体験活動の意義や各種提供プログラムのねらい、自然保育の概念や成り立ち、考え方について学ぶことができる機会を提供した。今回は聖愛幼稚園の相田 隆 氏を招き、野外実習では「落ち葉遊び」などのネイチャージームの指導を、また、座学では「リスクマネジメント」についての研修を行った。	2月 1回	9
15	あたごやまイベントフィールド 365	ライオン池で幼児用手漕ぎボード「パワーパドラー」を行なうなど、園内で季節に応じたイベントを実施し、感動体験を提供することで、心に残る家族の思い出づくりを演出した。	通年 107回	5,501
16	愛宕山 ボランティアバンク	愛宕山を利用する子どもたちの活動や事業をサポートしていただける方々や園内の清掃・整備をしてくれる団体などを幅広く募集し、愛宕山ボランティアバンクに登録し、支援・協力してもらうとともに、活動の場を提供した。	通年 64回	260
17	各種機関連携事業	各種関係機関と連携することにより、効果的な青少年健全育成事業を行った。 甲府市放課後子供教室等	通年 16回	3,910

18	広報事業	施設利用者の増加を図るため、県内の幼稚園・保育園へチラシを送付するとともに、新聞や雑誌への広告掲載、SNS 等の様々な媒体による施設の PR やイベントの情報発信を広域的に行った。	通年	
19	自然保育サポート事業	実施を希望した幼稚園や保育園に対し、こどもの国の豊かな自然環境を活かした幼児期の自然体験活動の支援をおこない、「生きる力」を育む機会を提供した。	通年 55 回	2,043
20 21 22	山梨県児童館連絡協議会 (共催: 青少年センター) (3 事業)	① 会員相互の連絡提携により、児童館運営の充実を図り、児童の健全育成を支援した。また、会員の資質向上を図るために特別研修会や先進地視察研修、ブロック別研修会等を実施した。 ② 児童健全育成推進財団事業 ③ 放課後児童支援員認定資格研修事業	通年 11 回	700
23	利用支援事業	こどもの国をより魅力あるにぎわい空間とするとともに、利用者の利便性や快適性を高めるために、キッチンカーによる軽食の販売や自動販売機によるおやつの提供、おむつやおしりふきといった衛生用品の販売、さらに熱中症対策としてテントの貸し出しを行うなど、利用者のニーズに応じたサービスの充実を図った。	通年	

3 県立八ヶ岳少年自然の家管理運営事業

八ヶ岳少年自然の家では、集団生活の中で自主的・自発的に行動する能力を身につけ、自律・協同・友愛・奉仕の精神を養うことを目的とした「少年団体の活動の場」として、利用者が安心して活動ができる事を業務目標の中心として施設運営を行った。

また、北杜市や山梨県立大学、地域関係機関との連携を積極的に進め、自然の家の認知度の向上と利用者の増加に努めた。

施設利用者 40,944 人（前年度 40,106 人）

(1) 利用者の安心・安全の確保

- ① 職員による毎日の巡回業務および月一回の施設点検を通じて、利用者が安心・安全に活動できる環境づくりに努めた。
- ② 「樹木の立ち枯れ」や「倒木」については、速やかに撤去作業を行った。

(2) 広報活動の充実強化

- ① 自然の家のイベントチラシを年度初めに、県内の保育園・幼稚園、関係機関に送付し、自然の家の事業について広く周知を図った。
- ② 県内の高校および都内の大学へチラシやパンフレットを配布し、部活動やゼミ等での利用促進を図った。
- ③ 利用者に必要な情報を分かり易くホームページに掲載し、定期的に更新を行った。また、X や Instagram などを活用し、自然の家に関するリアルタイムな情報を発信するとともに、事業の周知拡大を図った。

(3) 事業の充実

- ① 施設の設置目的を重視し、自然環境に恵まれた施設の特性を活かし、参加者の安心・安全を確保のうえ、事業を年間 28 事業実施した。
- ② 山梨県立大学をはじめとする各種機関と連携し、魅力的かつ満足度の高い事業を実施した。
- ③ 閑散期における利用者の増加を目的として、冬季に、立地や環境を活かした魅力ある事業を実施した。
- ④ 地域との連携強化に努め、防災訓練や祭りに参加するとともに、施設への理解促進を図るため、地域住民を対象に自然の家の活動プログラムに参加できる機会を提供した。

八ヶ岳少年自然の家事業実施状況

(単位 人)

No	事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
1	八ヶ岳利用者研修会	当自然の家の利用を予定している団体引率者が、集団宿泊活動や野外活動の意義を理解し、活動プログラムを組み立てる上で必要な指導知識や技術の習得を図った。	4 月 (日帰り) 2 回	108
2	地域環境美化事業	地域住民と連携し、自然の家の玄関口ともいえる通称「牧場通り」を中心に、自然の家周辺の環境美化に努めた。	4 月～9 月 (日帰り) 6 回	50
3	地域共生事業	日頃から地域との連携強化に努め、地域の防災訓練やお祭りに参加した。また、地域の方の施設理解促進の機会となるよう、プラネタリウムやクラフト体験などを提供し、自然の家が地域に必要とされる施設となることを目指し、共生できる関係を築けるよう努めた。	4 月、9 月、10 月、3 月 計 4 回	103

4	春を探しに清里へ ～GWを楽しもう～	ゴールデンウィーク中に、家族で自然の家に宿泊し、活動プログラムを体験してもらうことで自然の家への理解を深めつつ、家族の交流や心身のリフレッシュを図った。	5月 (1泊2日または 2泊3日) 1回	111
5	施設活性化事業	関係団体や近隣住民と共同して施設の活性化を図った。 ・つつじ祭り清里ウォークへの協力 ・北杜市観光協会主催の「美し森環境美化活動」に参加	5月、6月、11月 計3回	890
6	八ヶ岳少年自然の家の思い出を描く作品展	雄大な八ヶ岳高原の大自然の中で活動した思い出を、子どもたちが自由に絵画で表現することにより、自然の家や自然環境への興味・関心を一層高める機会とした。	応募期間 5～11月 審査会 11月 表彰式 2月 (日帰り) 定員なし	1,494
7	チャレンジキャンプ	キャンプに挑戦したい家族やグループが気軽に参加し、自然の中で協力してキャンプ生活を送ることで、コミュニケーションを深め、より良い関係を構築する機会とした。	6月 (1泊2日) 1回	108
8	ボランティア研修会 ※体験の風をおこそう運動 推進事業	自然の家にボランティア活動を希望する方が、施設の特性や野外活動の意義を理解し、活動するうえで必要な指導知識や技術の習得を図る機会を提供した。	6月 (日帰り) 1回	30
9	フォレストキャンプ ～五感を磨く 1泊2日～	デジタル機器に触れる機会が増加することにより、様々な体験活動をする機会が減少し、人と人とのコミュニケーションにも変化が生じていることを踏まえ、集団宿泊体験を通して子ども同士のコミュニケーションを増やし、五感を使って、自然への関心を高める機会を提供した。	7月 (1泊2日) 1回	40
10	KIYOSATO ボランティア隊	指導補助者の方々や施設ボランティアを希望する方々に活躍の場を提供した。また、ボランティアと施設職員が連携して行う活動を通して、豊かな施設づくりを目指し、さらに清里地区全体の魅力づくりにつなげた。	7月～1月 計8回	54
11	各種機関連携事業	各種関係機関と連携することにより、効果的な青少年健全育成事業を行う。各種プログラム提供や他機関事業への職員派遣、事業の協働実施を行った。	7月～3月 計9回	2,327

12	甲斐児わいわい紀行 ※体験の風をおこそう運動 推進事業	自然体験や集団宿泊経験の少ない 児童が、様々な体験活動を通し、仲 間と遊び、協力していく中で、自分に 自信をもって活動できる子どもを育て る機会とし、自然の良さ、厳しさを体 感し、自然への関心を高める機会と した。	8 月 (4 泊 5 日) 1 回	30
13	自然の家フェスティバル(地 域交流事業)	日頃自然の家を利用する機会のない 方々など広く県民の皆様施設を 開放し、当少年自然の家への理解と 利用促進を図った。	9 月 (日帰り) 1 回	1,292
14	ナイトプログラム支援事業	秋以降の利用促進を図るため、普段 は指導を行っていない夜プログラム について、職員が指導・補助を行う体 制を作り、利用者の利便性を向上さ せた。	9 月～3 月 計 10 回	331
15	家族でチャレンジ！はじめ ての登山	施設の立地を活かした登山に親子 で挑戦することで、自然の雄大さや 美しさに触れ、自然への興味関心を 高める機会とした。また、互いに励ま し合いながら頂上を目指すことで、 家族の絆を深めるとともに目標達成 に向かう力を養い、強い体と心を育 てる機会を提供した。	10 月 (1 泊 2 日) 1 回	16
16	ワク！ホク！ オクトーバーキャンプ	小学校低学年の子どもたちが、親元 を離れて共同生活や自然体験を通 して、自分に自信をつけ、協調性や 社会性を育むきっかけにするととも に、外遊びなどの運動をすることで 身体能力の向上を目指した。	10 月 (1 泊 2 日) 1 回	43
17	秋を感じる ネイチャーDay	親子で五感を使ってネイチャーゲー ムを楽しむことで、その季節ならではの自然と触れ合い、自然の美しさや 不思議さ、動植物の生態などを体感 した。また、秋の味覚であるサツマイ モを焼いてもらうことで、火の暖かさ や煙の匂いを感じながら、家族団欒 の時間を過ごしてもらうとともに、参加 者同士の交流を図った。	11 月 (日帰り) 2 回	62
18	あわてんぼうのクリスマス～ クリスマスの準備をしよう～	身近な外国文化である「クリスマス」 に因んだ野外炊事やクラフトを家族 で体験することをおして、家族団欒 の場を提供するとともに家族間での 交流を深める機会とした。	11 月 (日帰り) 2 回	83
19	利用者との意見交換会	実際に自然の家を利用した団体の 代表者に「当施設をお使いいただけ る理由」や「自然の家に求めること」と いったテーマで意見交換する機会を 設け、今後の自然の家のあり方など について検討した。	11 月 (日帰り) 1 回	6

20	クリスマスナイトウォーク	自然の家の敷地内にある森林の中にライトアップしたコースを設置し、ナイトウォーキングを体験することで、夜の幻想的な自然を満喫してもらい、自然の家への理解を深めてもらい、閑散期の利用拡大を図る予定であったが、北杜市内において熊の目撃情報が相次いでいる状況を受け、参加者の安全を考慮し中止とした。 ※自然の家敷地内において、熊の出没はなかった。	11月～12月 中止	
21	甲運小学校区 放課後子供教室	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	12月 計2回	17
22	北杜市放課後子ども教室	北杜市と連携し、北杜市放課後子ども教室として実施する「ほくとワクワク教室」(イベント)に、職員を派遣し、レクリエーションやクラフトの講師として指導した。また、同時に青少年協会のPRを行った。なお、2月に実施予定であった2校については、インフルエンザの流行による学級閉鎖のため、中止となった。(青少年協会、北杜市連携事業)	12月～2月 計4回 ※2月(2回)中止	78
23	ハヶ岳星空観望会	光害が少ない清里高原の星空観望を通じて、星座や星空に親しみ、自然に対する興味や関心を高めた。	1月 (日帰り) 1回	66
24	ビギナーズ・スター・キャンプ ～月見里(やまなし)観望会～	星の美しい清里地区を舞台に家族で星空を見ながらコミュニケーションのきっかけとしてもらうとともに、誰もが知っている天体である月の動きを知ることで、天体への関心を深めてもらう機会とした。	1月 (1泊2日) 1回	53
25	家族で泊まろう ～ハヶ岳 in ウィンター～	閑散期における利用率向上を図ることを目的に、家族で自然の家に宿泊し、活動プログラムを体験してもらうことで自然の家への理解を深めつつ、家族の交流や心身のリフレッシュを図る機会を提供した。	2月 (1泊2日または 2泊3日) 1回	83
26	きよさとさんぽ ～森の自然をみつけよう～	朝の清々しい自然の中を家族で楽しみながら歩くことで、新たな発見を共有しながらコミュニケーションをとる機会とした。また、鳥たちの声を聞きながら自然を楽しむことから、普段とは異なる自然に触れ、自然に興味を持つきっかけとなる機会を提供した。	2月～3月 (1泊2日) 1回	40

27	冬を楽しむアクティビティ	自然の家の持つ環境の特性を活かし、冬の時期でも楽しめるアクティビティを体験することから、様々な季節での自然の家の利用促進を図るとともに、幅広い層への自然の家の認知を高め、今後の利用向上を目指した。	2月 (日帰り) 8回	112
28	皆既月食を観よう	天文界の一大イベントである月食を観測し、身近な天体である月の動きを知ることで、天体への関心を深めてもらう機会を提供する予定だったが、悪天候のため中止とした。	3月 (日帰り) 1回 中止	
29	利用者支援サービス	施設利用者を対象に、体験活動に要する資材を提供することで、利用者サービスの向上を図った。	通年 随時	
30	利用促進事業	利用者の増加を図るため、学校等への利用案内やイベントチラシの送付を行い、新聞・雑誌での情報発信、ホームページの充実・SNS等の様々な媒体を通じて施設のPRに努めた。	通年 随時	

Ⅲ 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高めるため、安定した経営資源確保のため、外部団体との提携により魅力ある事業を定期的に実施し、施設の利用率向上と収入確保を図った。

(単位 円)

事業名	主な内容	実施時期	経常収益
利用者支援サービス	自動販売機による飲料水の販売等を行った。	通年	3,633,421
プラネタリウム番組配給事業	当協会が配給権を有するオリジナルプラネタリウム番組を、公共施設等に配給した。	通年	92,950
外部団体提携事業	外部団体と提携し、専門インストラクター指導による講座を実施し、県民サービスと利用の拡大を目指した。	通年	284,240

事業報告の附属明細書

令和7年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。